

第98回 東葛しぜん研修観察会

あけぼの山公園で樹木ウォッチング

片岡真智子（野田市）

あけぼの山の観察会は 一昨年は雨天のため中止、再挑戦の昨年はコロナの影響で研修観察会でした。今回は一般観察会・研修観察会のどちらにするか 担当者3人の意見が分かれましたが、コロナ感染が猛威を振るっている時期に決断しなければならず、再度「研修観察会」にすることに決まりました。同じ場所で2度目の研修会、内容にどう変化をつけるのが考えどころでした。

薄曇りの中 総勢10名と少人数での研修会になったので、班分けしないで 全員でまとまって観察をしました。まずは本館前の花壇では枯れ始めたオミナエシ・フジバカマの秋の七草を中心に観察開始で、フヨウ・ムクゲ・アオイなどの名前から 丸い実が付いていて「ワタの花」で 続いて漢字「綿・棉」の違いなどの話しでは 参加者の皆さんはベテラン揃いで 綿の実でこんなに話が進むのだなと感心しました。続いて 本館前の立派なケヤキからです。種をつけた小枝がくるくる舞い落ちる姿は何度見てもみとれてしまいます。準備した「材」を手に取り、目の前の木の質感や香りを実感し、用途の説明になるほどと納得しました。

ここから本番、小島さん作成の樹木に関する「クイズ10問」に答えながら進みました。樹木クイズでは ①木造建築材、②日本酒の樽・樽の材、③檜材、④桐の楽器、⑤撫材、⑥アンコツバキ、⑦染井吉野、⑧千葉県の県木、⑨タブノキ、⑩拍子木は何？など。

各ポイントでの詳しい解説やクイズに 龍門さんの「国字」の話に花が咲きます。大きな実をつけたティカカヅラに、「種を飛ばすところが見たい」と皆で話していました。一つ一つじっくり観察しすぎて、ゴール地点12時20分到着予定のところが、コース半ばのさくら山でお昼になってしまいました。瑠璃色の実をつけたサワフタギを前に、オオスズメバチの動きに気を付けながらの昼食でした。

昼食後反省会をして一応解散。自由参加で予定通りのコースを歩きました。切り株の年輪を見て「南はどちら？」の話題。結論は「地形や環境によるので、道に迷ったときには頼りにしない方がいいね。」ということでした。

最後に双眼鏡でたわわに実ったモミの実を眺め観察会は終了しました。

参加者の皆さんには「担当者の立場で、このポイントではこんな話をしたらどうか」とか「参加者に子どもさんがいた場合の方法」など気づいたことを助言していただきました。観察会の準備中、小島さんからは「あけぼの山は散歩コースだから」と言って何度も何度も公園の情報を届けていただきました。



一茶の俳句はどれでしょうか？ 年輪を観ての方角は当てにならない コスモスとキバナコスモスは見頃